

神社出土の古瓦」(伊東信雄)その他有力な論考が収録されている。黄金山神社は式内社。

注(5) 東華学校は、明治25年3月末廃止され、校地校舎の一切を新設の宮城県尋常中学校〔初代校長大槻文彦、現宮城県第一高等学校の前身〕に譲渡した。生徒の編入も含む私立から公立への移譲であった。僅か5年の短命なこの学園から、山梨勝之進・児玉花外・真山青果など郷土の誇る俊秀が輩出した。37年、東華義会は宮城県尋常中学校が使用していた旧東華学校の施設が返還されたのを機会に東華女学校を設立した。41年東九番丁に移転した時東華学校本館が清水小路から移築された。大正10年、中島丁女子師範学校に併設されていた宮城県第二高等女学校が、東華女学校を吸収合併してこの地に移って来た。宮城県第二女子高等学校の前身である。同校の同窓会を「二華会」と称する。二は二女高、華は東華女学校の意味である。東華学校の歴史を刻む本館は整正典雅な洋風明治建築で、90年近い使用に堪えたが、破損甚しくなり取毀され、宮城県文化財保護協会が製作した模型が宮城県図書館に保存されている。また、清水小路の東華学校址〔現専売公社仙台支社構内〕に、昭和7年に卒業生が建てた同志社〔校長新島襄、東華学校の校長でもあった。〕出身徳富蘇峯撰文の由来碑がある。

資料 松の実第21号(宮城県第二女子高等学校)  
宮城学院中・高等学校紀要第2集

## 56. 皆鶴姫伝説のあるところ

問 宮城県内に、皆鶴姫伝説のある所があればそれはどこか。また、それらはどのような筋のものか。

答 皆鶴姫伝説のあるのは、本吉郡の気仙沼地方です。

皆鶴姫とは、勿論伝説上の人物で、軍記物の「義経記」〔ぎけいき〕に、父が秘蔵する兵法の書<sup>(1)</sup>をひそかに持出して、これを所望していた牛若丸に手渡したため、父の怒りをかい、悲劇的な運命に身を果てる女性として描かれています。この皆鶴姫の後日譚が、各地に分布する義経伝説の中に、とりどりにローカル化されて登場してくる場合があります。義経伝説と一連のものですが、ことさらに取り立てるとき、これを皆鶴姫伝説といえるでしょう。

気仙沼地方に残っている皆鶴姫伝説にも幾通りかの筋があります。その一つは次のようなものです。皆鶴姫は、洛北の鞍馬寺別当鬼一法眼〔きいちほうげん〕の娘でした。牛若丸がこの鞍馬寺にあって、鬼一法眼が平家から預っている兵書「六韜三略」〔くりとうさんりゃく〕を、姫に持出させて手に入れました。程なく牛若丸は、金売吉次と共に平泉の藤原秀衡のもとに下って行きます。

やがて、兵書持出しのことが発覚し、姫は父の怒に触れ、舟に乗せられて海上に追放されたのです。それが四国阿波の国の浜からとも、茨城の九十九里浜からとも、二様に伝えられています。洋上を漂流した姫の舟は、本吉郡の鹿折浜〔ししおりはま〕に漂着したが、里人は罪人の上陸を拒否し、舟を押し返してしまいます。姫が母から与えられ肌身につけていた観音像が無情な里人をこらしめるため、海を変じて陸としたということです。ここが罰が崎〔現在の蜂が崎〕と呼ばれるところです。舟はそれから松岩村の海岸に流れ着いて、ここに上陸することができました。姫はこの浜辺で数年を過ごしてから、淋しく、その生涯を終わりました。気仙沼にある化粧板は、姫が生存中化粧したところと伝えられます。姫の死をあわれんだ村人は、その遺骸を葬ってやり、肌身につけていた観音像のために、一堂宇を建立してこれを安置しました。義経がこのことを伝え聞き、姫の霊を慰めるために一庵を建て、そして観音像は観音寺〔現在の気仙沼本町〕に移して観音堂を建立したということです。

また、別のストーリーでは次のようになっています。義経が、姫が舟の中で死骸となって本吉のゆりあげ浜に漂着した夢を見ました。驚いた義経は、平泉から馬を飛ばして「本吉のゆりあげ浜は何処か」と叫びながら、松岩村の弥陀が崎の海岸にさしかかりました。村人が集まっているので近づいて見ると、夢にみた通りに死んで打ち上げられた皆鶴姫だったのです。義経は姫を手厚く葬り、姫の守り本尊であった観音像を、近くの観音寺に托します。そして一堂を建立して、改めて観音像を安置しようとしたのですが、折しも兄頼朝の拳兵を聞いた義経は、急ぎ鎌倉に馳せ参じなければなりません。そこで村人たちは、観音像を観音寺ぐるみ、現在の本町の地に移しました。その後、義経は兄と不和になり、平泉に逃れ下る途中、気仙沼本町の観音寺を詣でるのです。今、境内に弁慶の袈裟〔けさ〕掛けの桜があり、寺宝として義経の笈〔おい〕と伝えるものが残されています。

更に現地性の濃厚な記事が「けせんぬま口碑伝説散歩」（小山秋夫）のなかにあります。『松岩海岸の……阿弥陀が鼻の……崖の上には、大小二つの石の祠があり、小さい方の祠が皆鶴姫を祭ったものだといひ、仏祖（ほとけそ）の屋号をもつ民家で祭祀を行っている。また……老松・赤岩公民館の前に花草庵がある。皆鶴姫のなきがらを火葬にした丘だといひ、聖観音を祭ったのが花草庵で、はじめ「火葬庵」と書いたが、のち「花草庵」の字を用いるようになったという。宝暦12年〔1762〕に秋葉神社を勧請、合祀したが、神仏分離令で秋葉神社と改めた。花草庵の縁日には、明治末まで観音寺で供養したといわれる』。

注(1) 全8巻、作者不明、その成立は南北朝末期から室町初期と推定されている。牛若丸の生い立ちから衣川の自刃までの義経の生涯を描いている。叙述は、史実と伝説とを巧みに構成潤色しており、謡曲その他後世の義経物語の基となった。

注(2) ともに中国兵法の古典である。六韜は周の太公の撰と称する兵法の書、文・武・龍・虎・豹・犬の6巻60編、実は魏晉時代の偽作と考えられる。三略は上略・中略・下略

の3巻で、黄石公の撰と称せられるが、実は後代の偽作である。

資料 郷土の伝承第3輯（宮城県教育会）

本吉郡誌（本吉郡町村長会）

気仙沼町誌

けせんぬま口碑伝説散歩（小山秋夫）

伝説（三原良吉、「宮城県史」第21巻の内）

## 57. 九合水とは何か

問 わらじ村長鎌田三之助翁の日記を見ますと、「九合水」という言葉が出てきます。これはどういうことですか。

答 鎌田三之助日記には、九合水〔きゅうごうすい〕という語が次のように使われています。

『明治三十七年八月二十七日 鳴瀬川九合水、品井沼九合水、堤防欠壊し冠水せし水田四分作となる。』  
(1)  
(2)

明治四十年八月二十八日 洪水、鳴瀬川九合水』

この場合の漢字の九〔きゅう〕は、集める、合わせる意味で、漢字の糾〔きゅう〕と同じです。「論語」憲問第14にも『桓公九合諸侯』などの用例があります。故に九合水とは、水が諸方から注ぎ集って増水することをいっているのです。

注(1) 文久3年〔1863〕鹿島台村に生れた。明治法律学校〔明治14年創立、明治36年明治大学と改称、大正9年大学令による大学となる〕に学び、郡会議員・県会議員から代議士にまでなったが、明治42年全村あげての懇請により第5代の鹿島台村長となった。それ以来継続10期、実に38年の長期にわたり、殆ど無報酬で村勢建て直しに心血を尽した。特に祖父玄光と父三治の遺志を継いで品井沼の干拓事業を完遂したことは、まことに偉大な功績であった。常習水害にさいなまれて貧窮のどん底にあったこの寒村が、昭和26年には、他に類例の少ない単独町制を堂々と施行できる実力をもつまでに成長したのは、一にその賜物にはかならない。在任中、常に弊衣破帽にわらじばき、腰弁姿を押し通したので「わらじ村長」の名で全国に知られたものである。自治体の長として、この人ほど住民の利益と幸福のために生涯を捧げ、住民の心からの敬愛を受けた人は少ないであろう。昭和2年自治・治水功労者として藍綬褒章を受けたが、昭和21年引退。25年5月3日、88才の生涯を閉じた。村民葬の列は延々1キロに及び、沿道の各戸はそれぞれ門前に花を供えてひつぎを悲